



消防学校 ニュース



初任科 実科査閲

～訓練の成果を披露する晴れ舞台～

初任科第94期114人は、消防職員として必要な知識・技術を習得するため、寮生活を送りながら半年間(令和5年4月6日～9月26日)の厳しい教育訓練を受けてきました。

その集大成として、9月12日(火)に各種訓練の査閲を実施しました。初任科生は、各消防本部消防長や親族に向け、訓練成果として、これまでに身につけた技術、体力、意志のすべてを余すことなく全力で披露しました。その場にいた誰もが、初任科生の成長を体感していました。

【実科査閲次第】

- | | | |
|---|----------|-------|
| 1 | 開 会 | 13:00 |
| 2 | 訓練開始 | 13:20 |
| | 訓練礼式 | |
| | 機器取扱訓練 | |
| | 消防活動訓練 | |
| | 消防活動応用訓練 | |
| | 救助訓練 | |
| | 一斉放水 | |
| 3 | 閉 会 | 16:00 |



学生入場

開 式



学 校 長 訓 示



滝静岡県危機管理監代理挨拶



池田静岡県消防長会会長挨拶





訓練 礼 式



機 器 取 扱 訓 練



消 防 活 動 訓 練



消 防 活 動 応 用 訓 練



救 助 訓 練



一 斉 放 水

閉 会 式

(担当教官コメント)

初任科生は、実科査閲に向け全員で準備を進めました。

各実科班は、23名程の学生と安全管理を担う担当教官で構成され、班長と副班長を中心に、ナレーションを含めた訓練概要を組立てました。自分たちで検討し構築した訓練を屋外訓練場で実施しては修正を加え、より安全で確実な活動を目指して鍛錬を重ねて行きました。その期間中に、インフルエンザウイルス感染症が発生し、離脱を余儀なくされたり途中で復帰する学生が多数いましたが、その変則的な人員にも速やかに対応し、内容を練り直しながら準備を進め実科査閲当日を迎えました。

今回も来賓に加え、親族の観覧を受入れましたが、親族の来場者数が約350人と非常に多く、御家族の想いがどれだけ深いのかを実感しました。来賓と親族が着席し、今までにない熱気を帯びた訓練場の雰囲気にも包まれた後、開会により学生たちが入場しました。

来賓及び親族の眼差しを背に受けた学生たちは、意識、目つき、姿勢などの節度が完成した一糸乱れぬ縦隊のかけ足で入場し、今から行われる訓練への期待を更に高めました。開会直後に行った訓練礼式では規律と節度を披露し、機器取扱訓練では完成度の高い資器材取扱いを披露しました。消防活動訓練では迅速な消火活動を実施し、消防活動応用訓練では実践的な技術を駆使し、安全管理を徹底した迅速な救出を行う救助訓練と進み、最後に学生全員で行った一斉放水が行われた時、その場にいた全ての者が、学生たちの頼もしい姿を目の当たりにして感動を覚えました。半年間の苦しくてつらい教育訓練を乗り越えた者のみが体験できる達成感を、学生たちは味わっているようでした。

今回の実科査閲は初任教育の一部であり、これからの消防人生にとってはほんの一瞬の出来事でしたが、彼らがこの先で困難に直面したとき、この経験が糧となり乗り越えられると信じています。

教務課主査 山田 友也 (静岡市消防局から派遣)

初任科修了式

～消防学校からの旅立ち～

令和5年9月26日(火)に修了式が執り行われました。

今期は、新型コロナやインフルエンザが流行し、何日も欠席を強いられた学生が発生したことや、夏場は記録的な猛暑により、高温環境下での厳しい訓練が何日も続きました。過酷な状況が続いても、学生たちは、共に協力し、助け合いながら日々を乗り越えました。学生たちにとって、今までの人生で最大の変化を遂げることとなった、教育日数115日に及ぶ初任科第94期は、修了となりました。

【修了式次第】

- 一. 開式の辞
- 一. 国旗に対する敬礼
- 一. 国歌奏楽
- 一. 消防殉職者に対する黙祷
- 一. 修了生氏名発表
- 一. 修了証書授与
- 一. 表彰
- 一. 学校長式辞
- 一. 静岡県危機管理監祝辞
- 一. 静岡県消防長会会長祝辞
- 一. 修了生代表答辞
- 一. 閉式の辞



学校長から修了生代表へ修了証書授与

表彰一覧

種 類	氏 名	所 属
静岡県危機管理監賞	佐藤 貫太	静岡市消防局
静岡県消防長会会長賞	寺田 裕星	袋井市森町広域行政組合袋井消防本部
静岡県消防学校長賞	小松 聖海	富士山南東消防本部
	清水 洸建	下田消防本部
	大村 海誠	静岡市消防局
精励賞	荒金 遼河	志太広域事務組合志太消防本部
	石井 敢太	駿東伊豆消防本部
	渡邊 光貴	富士市消防本部
	鈴木 皓哉	浜松市消防局
	小泉 貴都	富士山南東消防本部
努力賞	藤巻 睦真	志太広域事務組合志太消防本部
	石上 嘉威	静岡市消防局
	太田 莞詞	静岡市消防局
	前畑 一樹	磐田市消防本部
	大川 博也	駿東伊豆消防本部
功労賞	岩本 達明	浜松市消防局
	石井 敢太	駿東伊豆消防本部
	石橋 駿	駿東伊豆消防本部
	佐藤 貫太	静岡市消防局



静岡県危機管理監長賞表彰



静岡県消防長会会長賞表彰



静岡県消防学校長賞表彰



精励賞表彰



努力賞表彰



功労賞

修了生代表 答辞

朝夕と過ごしやすい涼しさとなり、秋の訪れを感じる季節となりました。

本日は私たち、初任科第九十四期修了生百十四名のために、このような盛大な修了式を催していただき誠にありがとうございます。

また、ご多忙の中、ご臨席くださいましたご来賓の皆様には修了生一同心から感謝申し上げます。

思い返せば私たちは、令和五年四月六日の早朝、これから始まる半年間の寮生活に期待と不安を胸に、大量の荷物とともにバスに乗り込みました。はじめはざわざわしていた車内も消防学校が近づくにつれ口数が減っていき、窓から訓練塔が見えると一気に緊張感が高まり、鼓動が早くなったのを今でも鮮明に覚えています。到着直後、私たちを待ち受けていたのは入校受付、入寮受付という最初の難題でした。右も左もわからず、とにかく教官方に言われた通り行動し、何度も何度もやり直し、やっとの思いで入寮できました。想像していたよりもはるかに厳しく、なぜこんなにも指摘されるのかその時はまだわかりませんでした。

入寮後、これから仲間になる者たちと手探りの共同生活が始まりました。これまで過ごしてきた生活とは異なるもので、時間を厳守し規律を徹底することを何一つ満足にできず、教官方に毎日ご指導していただく日々が続きました。そんな中、座学、訓練礼式、通常点検が始まりました。座学では、法律や消防業務の基本的な知識、消防吏員としての心構えなど幅広く学びました。訓練礼式では、基本の姿勢から学び、一つ一つの動作の繊細さに驚くとともに、徹底した教官方のご指導にこれからの半年間を想像して、学生全員が愕然としました。また、毎日実施される通常点検では、しわ、埃、靴の磨き残しや視線にまで気を配り、それでもなお指摘事項は減らず、満身創痍の日々が続きました。そんな怒涛の四月の終わりに、非常呼集の笛の音が寮内に鳴り響き、驚きと焦りが同時に押し寄せました。指定された携行品が足りない学生や、準備にかなりの時間を要している学生が多数見受けられ、教官方から準備に対する認識の甘さを指摘されました。この経験から、実際の現場で迅速で確実な活動をするためには準備が大切だと気づかされました。

～中 略～

四月から毎日を必死に過ごして半年がたち、本日、初任教育は修了を迎えます。私たち百十四名が今日この日を迎えることができたのは、学校長をはじめとする教官方、学校職員の皆様、私たちをここまで育ててくれた家族のおかげです。未熟で弱くて力不足で、何度も何度も心が折れそうになりましたが、今こうしてこの場に立てていられるのは、苦楽を共にし、時には全力で衝突しながらもお互いを支え合い、信頼しあえる仲間がいたからです。私たちは強固な絆で結ばれています。これから先、幾度となく押し寄せてくる困難に対しても、私たちなら乗り越えていくことができると、確信しています。これからは別々の地でそれぞれの道を歩みますが、この消防学校で共に過ごした半年間を、私たちは絶対に忘れません。そして、何度躓いても立ち上がり、どれだけ時が経とうとも初心を忘れず、不屈の精神で国民の生命、身体及び財産を守るよう尽力していきます。

最後になりましたが、学校長はじめ、教官方、職員の皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈りするとともに、静岡県消防学校のさらなるご発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。



令和五年九月二十六日

初任科第九十四期 修了生代表

浜松市消防局 岩本 達明



初任科担当教官から修了生たちへ

今期の主担当を任命された時から、決めていた指導方針がいくつかありました。

ひとつに「規律と節度」があります。労働経験のない若者を、消防人以前に社会人として育て上げるには、まずは規律という名の消防学校のルールを徹底させ、社会人としての振る舞いを身につける節度が必要だと考えていたからです。教官方にも常に教育方針について、協力と理解を求め、方向性が逸れることがないように、常々お願いを重ねていました。全教官が全力で学生に向き合い、熱い指導やフォローを行っていましたが、それでも繰り返し注意を受けたり、規律違反をする学生が多数いたため、こちらでも何度も頭を抱え検討を重ね、何とか全教官で教育指導を持続しました。

何も知らなかった君たちも、日を追うごとに、学び、理解し、実行する力が付き始めました。それは教官の指導以前に、自主的な考えと気付きが芽生えたからです。期間の中盤あたりから、自信を持ち始め、挑戦する前向きな姿勢も見えてきましたが、私は決して認めず褒めない姿勢を提示しました。君たちの成長に気付き、賞賛の言葉を掛けたいと何度も思いましたが、あえて留まりました。理由は、それで満足させたら成長が止まるからです。君たちが理解したことは社会人としての常識で、技術の習得は消防人として僅かなもので、全くの半人前だったからです。私の所作次第で、初任科第94期の全てが緩み、節度が保てず成長が止まるのなら、最後まで厳しい指導を貫き、代わりに少しでも伸ばしてやる、と決意していましたから、君たちは「教官の前ではしっかりしないと」と意識していたでしょう。もう教官がいなくても、所属でその意識を保ち、先輩や住民に表してください。

方針のもうひとつに「強靱な精神力」を育て上げることがありました。消防は、人の生死に向き合いながらも正常な精神を保ち、的確な活動を遂行しなければなりません。私も今まで経験した災害活動で、いくつもの場面で突然フラッシュバックすることがあります。それでも、次に助けを求める声に手を差し伸べ、期待に応えなければなりません。地域住民にとって消防士は、強く逞しく絶対に助けてくれる正義の味方です。その期待に応え続けるには、強靱な精神力が不可欠です。現代社会において、その大切な部分を育ててくれる人物や環境はありません。精神力は自ら育むしかありませんが、初任科教育においてそれを鍛えるのは、我々教官です。訓練中に何度も苦しみ、嫌になるほど大声を出させ、さらに走って倒れさせたのはこのためです。昔と今の自分を比べてみてください。少しの事では怖じけることのない、強い精神力が備わったのではないのでしょうか。

最後に、これからの消防人生で思い悩むことは星の数ほどあります。1つの事で下を向いてしまえば、周りに迷惑を掛けるばかりか、地域住民にも悪い影響を与えます。すでに、階級章を与えられた価値のある消防士であり、次々に起こる出動要請や予防査察などに対応し続けなければ、一人前にはなれません。つらかったら、周りの先輩や同期に相談して、ひとりで苦しむことがないように、成長を続けてください。そうすれば、時が君を立派な人物に育ててくれるはずですよ。

次に出会った時、大きくなった姿を見せてくれると信じています。



教務課主査 山田 友也 (静岡市消防局から派遣)

クラス担任から修了生へ修了証書授与



1 組



2 組



3 組



初任科(第94期)修了おめでとう!!

台湾防災演習、内政部消防署訓練センター等視察

台湾内政部消防署（日本の総務省消防庁に相当）から、「静岡県と台湾の交流を一層深めるため、9月21日の台湾防災の日に合わせて開催される防災演習のほか、内政部消防署訓練センター等を視察いただきたく、静岡県危機管理部及び消防学校を招待したい。」との提案があり、危機政策課若林危機専門官、消防学校浅井総務課長ほか1名が台湾を訪問した。

なお、日本からの参加組織・団体等は、本県のほか、総務省消防庁、東京消防庁、危険物保安技術協会、兵庫県立大学、日台交流協会であった。

月 日	行 程	宿泊地
9/19(火)	(移動：日本（羽田空港）→台湾台北市（松山空港）) 【台北市】 ・台北市災害対策センター（EOC）視察 (移動：台湾台北市→同新竹市、新竹県)	新竹市
9/20(水)	【新竹市】 ・新竹サイエンスパーク管理局視察 ・TSMC社第十二工場視察 ・毒性化学物質災害想定訓練視察 ・新竹市消防教育訓練基地視察 【新竹県】 ・防災演習（9/21）のリハーサル視察	新竹市
9/21(木)	【新竹県】 ・防災演習視察 (移動：台湾新竹県→同南投県) 【南投県】 ・消防署訓練センター視察 ・南投县政府消防局第三大隊竹山分隊視察	南投県
9/22(金)	(移動：台湾南投県→同台北市（松山空港）→日本（羽田空港）)	—



台北市災害対策センター



新竹サイエンスパーク



TSMC社第十二工場



毒性化学物質災害想定訓練



新竹市消防教育訓練基地



防災演習 台湾消防関係訓練参加者



防災演習 外国人視察者集合写



消防署訓練センター 災害救助犬養成



消防署訓練センター バックドラフト体験

三沢校長から一言

秋も深まって朝晩は涼しくなってきました。今年、わが家の小さな柿の木は実をつけているでしょうか。去年は裏年だったらしく、まったく実がなりませんでした。

十数年前、たくさんの大きな実をつけたことがあります。それを見た父の仕事仲間から、代金を払うから譲ってほしいと申し出がありました。彼は北海道の出身で、北海道では柿が珍しく、親族に送ってやりたいとのこと。家族で相談し、半分くらいなら譲ろうということになり、畑に採りにいったところ、ひとつ残らず盗まれていました。秋の味覚の悲しい思い出です。

私は、というか消防学校の職員は、ほぼ全員が自家用車で通勤しています。私は普段、ニュースや交通情報、天気予報が気になるので、テレビかラジオを聴いていますが、休み明けはどうも気合が入らないので、音楽を聴きます。今は、というか昔から清志郎のファンだったこともあって、RCサクセションの「雨上がりの夜空に」（古いですね！）のノリがお気に入りです。長男が小学生の頃、バスケの遠征帰りによく一緒に歌いましたが、当時、長男は歌詞の意味がわかっていなかったはず。大学生になった今はどうなのか、聞いてみたい気がします。うまくはぐらかされ、彼の成長を感じるひとときになるかもしれません。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索